

平成 25 年度 新学術領域研究（研究領域提案型）審査結果の所見

研究領域名	動的クロマチン構造と機能
領域代表者	胡桃坂 仁志（早稲田大学・理工学術院・教授）
研究期間	平成 25 年度～平成 29 年度
科学研究費補助金審査部会における所見	<p>本研究領域は、遺伝子発現制御とクロマチン構造のダイナミクスの関連性について、原子分子構造レベル、分子間相互作用レベル、核構造レベル、高次機能レベルで統合的な解明を目指すものである。学術的重要性は高く、また非常にタイムリーな研究課題であり、新学術領域研究としてふさわしい提案である。</p> <p>一方で、計画している内容が非常に膨大であるため、研究目的の達成に向けた一層の意思統一が必要と思われる。特に、構造機能相関から高次機能解析へどのように結びつけるかが課題であり、異なる研究階層間のギャップを埋めるための具体的方策について、さらなる検討が必要である。また、将来的には疾患治療へも展開することが望ましい。</p> <p>研究組織については、当該分野において実績のある計画研究代表者で構成され、各計画研究が有機的に連携できる仕組みを構築している。研究領域の格段の発展と周辺領域への波及効果も期待できる。また、企画調整、研究支援活動、若手研究者育成について十分検討されている。一方で、公募研究の選定方針や広報・アウトリーチ活動については、具体策を検討する必要がある。</p>